「田植え体験」

H29 年 4 月「吉野熊野新聞」より

4 月 28 日、五郷小の児童と恒例の「田植え体験」を行いました。

実りの秋を思い浮かべ

五郷 児童生徒が田植え体験

熊野市五郷町の「ふる郷創生実行委員会」（吉田和男委員長、大橋秀行世話人）は4月28日、同町の水田で五郷中、小学校の子どもたちと田植え作業を行った。

同委員会は五郷の活性化を目的に「いいさと会」「区長会」「婦人会」「五楽会」「五郷消防団」はじめ地元建設・建築会社も有志で組織。昨年度からJA三重南紀の協力も得て、地区の小中学校と共に低農薬・有機米のコシヒカリ「ホタルの光」を目指して取り組んでいます。今日は頑張って植えましょう」と話し、作業の流れを説明。子ども会を代表し五郷小5年生の浦狩歩斗君が「美味しいお米が作れるよう頑張りましょう」と元気よく挨拶した。

引き続きJA三重南紀営農指導員の坂口勇、井本員夫さんが稲の生育過程や苗の植え方などを指導した。

この後、参加者は田んぼへと入り田植えを開始。子どもたちは泥に足を取られながら、農に親しんでいた。今後は5月中旬に草取りを、8月下旬に収穫を予定しており、収穫した米は学校での収穫祭や五郷の祭りの景品、婦人会の炊出しなどに利用される。

【「頑張りましょう」と浦狩君】

【説明を聞く児童生徒】

【田植えに励む子ども達】

美味しいお米を作ろう

五郷小 五郷中 ふる郷創生実行委と田植え

熊野市の五郷小学校（伊藤聡校長）と五郷中学校（高田有治校長）、ふる郷創生実行委員会（吉田和男委員長）は四月二十八日、五郷町の田んぼで田植えを行い、農業の重要性を再確認した。

昨年度に続いて、低農薬で有機米コシヒカリ「ホタルの光」を栽培する取り組みで、三重南紀農業協同組合が協力。五郷保育所近くの中田敏也さん所有の約七㌃の田んぼを使い、小中学生と教員、保護者、同実行委員会のメンバー、JA職員ら四十五人が参加した。

同実行委員会の大橋秀行世話人が「農業は約二千五百年前から行われ、とても大事。3K（きつい・危険）農業から新3K（健康・希望・環境）農業に変えるよう取り組んでいる」と述べ、五郷小学校子ども会の浦刈歩斗副会長（五年）が「美味しいお米が作れるよう、みんなで頑張りましょう」と挨拶した。

JA営農指導員が「苗は四、五本を手に取り、二～三㌢の深さに植えて下さい」と説明。全員が素足や長靴姿で水が張られた田んぼに入り、手作業で丁寧に苗を植えた。

五月中旬に草取機を使って除草作業を実施し、八月下旬に稲刈りを行う予定。収穫した米は五郷小学校の収穫祭、五郷婦人会活動、ふれあい公園での秋祭りの景品などに使用するという。

丁寧に苗を植える小学生ら

植え方を教わる児童と生徒ら

ご協力いただきました「ふる郷創生実行委員会」、地域婦人会の皆様、ありがとうございました。